

片耳豚
R18
成人向け

18歳未満の
購入・閲覧禁止

純情!
戰場!
カクシカク

敏感！
陵辱！

ぞん
きり
の





せいべリアさんはヴァルキョリアなので
処女性は大切！
じゃあ後ろはよくね？
的な統一見解の帝国があったとが
あと慰問のお話

セルベリア・プレス
……擔任しました

専任顧問——

それは、帝国が秘密裏に採用しているシステムである。
軍に多大な貢献をもたらした上級将校にのみ、
その制度に行使が認められる。

指名された士官は、規定された期間をその将校に、
あらゆる意味で——捧げなければならぬ。
これは軍命として強制力が発生する。

セルベリアにとっても、それは——例外ではなく

おお！ 待ちかねたよ

さあ大佐
そんなところにいないで
こちらに来なさい

君を指名するのは
相変わらず大変だったよ
どうだね？ 私が君に会えない間
誰かが君に専任を出したかね？

い…いえ…
私を指名されるのは
閣下だけです…

相変わらず美しい髪だね大佐
とても軍人のモノとは思えないよ

恐れいります…

この男に対して
専任慰問を行うのは
これで三回目だった—

金で階位を買ったといわれる下衆に
私はこれから三日間
自身の体を捧げなければならぬ…

はっはっは！ そうだろう
今回も幾ら貢献したか分からんほどだ

白々しい風匂に寒気が走るが
これが軍命である以上
この三日間は任務である
耐えなければならぬ

さあ早速おさらいだ
大佐の体が前回の慰問で
どれだけいやらしくされたか

そ…そんな…私は

まずはそれを思い出して
もらわないとな

久しぶりの大佐の肌は格別だな
そこいらの女ではこうはいかん

やはり大佐は優秀だねえ
さっそく体が
反応しているじゃないか

そんな…ことは…
ありませ…んっ

くそっ…なぜだ？
どうしてこんなにも
簡単に声が…

んっ

くっ

はあ

はっ

むいっ

むいっ

将校のギラついた欲望が
セルベリアの肢体を余す所なく這い回る
かつて二度の陵辱で開発された体が
ゆっくりと開かれていく――

強麗な戦乙女を反抗できない状況に追い詰め
抗おうとする様を楽しみながら
ゆっくりと肉欲の快楽に染める――
そんな歪んだ劣情に将校は傾倒しきっていた

巧みな言葉で追い詰め恥辱を煽り
老練な指使いで快感を煮る――

セルベリアは自身の意思から
徐々に抵抗の言葉が薄れていくことに
気付けないまま
その熟れた肢体を捧げ続けるしかなかった

はっ

あぁっ……
……こいつっ！
そんな風にソコをっ
弱いのに——知っているくせにっ

うぁぁ……
指が……胸の先をっ
そんな——しびれ……るっ

いかん——流されるなっ
これまでのような
痴態を晒すことは——

下衆めっ下衆めっ！
焦らすみたいに触っ……て？

ち……違う！
馬鹿な……私は何を
考えて——！

うぁぁぁぁ！
止めろお……そこお
切なくなるからぁ

んじゆる……どうしたかね？
せっかくの任務だぞ
遠慮せずに声を……じゆる
出したまえ

この男っ——
どこまで辱めれば——！

ああああっ！
くそっ……やめろお——！
乳首をそんな風に……

さてそろそろ
こちらの眠り姫に
起きていただくとするかな

ひいっ——
舌でころろが——
うわっああ？
吸われてっ

ひあああっ
そこはあっ

あああっ！

や...め.....
駄目だ.....そこは...
そこだけはあー

あの時の大佐は
それはそれは可愛らしかった

今でもよく思い出すよ
私のモノで君の菊姫を
はじめて頂いた時のことを

あの時君がどうい風か
どのように乱れたのか

ほら君も思い出し給え

ああ...ああ...駄目だ
思い出すな...
思い出すなあ.....



アナルをいじり始めた時
君の声が変わったので
もしやと思ったが

まさに読み通りだったなあ
そういえば大佐が始めて
私に「止めて」と哀願したのは
舌で舐め始めた時だったか？



よせっ！
やめろ…
やめてくれっ

フル

フル



一日中いじり回して
舐め回して——
あの日は少し手間取ったが
素晴らしい時間だった

すっかり屈服したアナルを見た瞬間
それまでの苦勞が吹っ飛んだよ

鳴き叫びながら
はしたなくイキ乱れる君は
喻えようもなく美しくかった

あああああ
いやあ……思い出させるなあ……
こんな……こんなあ……
おかしくなる……
またアソコを狂わされてしまう

本当だよ？
私はその様だけで
なんどもなんども
射精しそうになったものだ

言うなあ……言うなあ

あの夜が終わる頃には
雌犬のように可愛らしくなって
卑猥な言葉でも何の躊躇いもなく
囁けるようになったねえ

最後はおねだりも聞けたねえ

さあ大佐
今回は指何本で
お利口になるかな？

耐えろ！ 耐えろ！
耐えなければ
私は――

耐え――

ふたーっ

た――

あ

あ

みいーっ

あ――
あああああ

駄目……だあ
こんな……こんな快感……
屈服――しているう
私の尻穴がこんな……
こんな下衆に……
屈服させられているう

あ

あ

あ

あ

さあ大佐
あの夜教えただろう？



尻穴なんかで快楽を食る
はしたない戦乙女は何と言うんだ？
尻穴でイッたら何と言うんだ？

グニ
あっ♡
あっ♡
グニ

いやだぁ……イキたくない
イキたくないのに……
もう……これ以上はぁ——



ああああ♡
い——ってしまおうう
尻穴……墮されてええ
屈服させられてえええ
戻れなくなるう——♡

イキ……ますう♡
セルベリアはぁ♡
お尻の穴でえ——♡
快……感……おおを得るう♡
雌犬ヴァルキュリアですう

えらいぞ大佐それじゃあ
言いつけを守った
雌犬にはご褒美をやらんとなあ

そおら雌犬大佐の大好きな
御主人様○ンボだそお

あああ……頼むう……
これ以上……おかしく……
おかしくしないでくれ……っ

それは駄目なんだあ……
それを——それを入れられるとお

入○ロ○ン○ボ○

あ○ち○ち○ち○ち○ち○

お○ん○ボ○

ホレ！ 奥だ！
奥だぞ！
セルベリアの大好きな
奥突きだぞお

ああ♡

むおおお！
素晴らしい締め付けだ
早速出すゾオ！

ああ♡

ああ♡

ぬぬぬぬぬぬ

こんなこんなああ！
こんなこと耐えられるわけがあ
あひいいい！ いやあ！
耐えられるわけがあっああ

あ

安心し給え一発くらいでは
萎えんように葉は飲んであるよ

ああ♡

びゅる

びく

びゅる

ああ♡
ああ♡



ふうーまったく……
なんという淫猥な尻穴だ
ちっとも萎える気配がないな

ゆるひ……もう……閣下……
これ以上はあ……
わらひ……本当に……
雌にい雌になりまひゅう……



何を言っておるんだセルベリア
これから三日間君は徹底的に
尻穴で墮とされるんだぞお

ひよん……なあ……
ひよんなこと……

あーんじゅ

これからは私の姿を見るたびに
勝手に発情して——
尻穴から雌犬汁を
垂れ流してしまいうまでなあ



その言葉通り
その日から三日間——
私のアナルは徹底的に舐られた

恥も外聞もなく鳴き
また：果てさせられた

息を吹きかけられるだけで絶頂する
雌の穴に仕立て上げられながら
幾度も幾度も——
屈辱の言葉を喋らせられた……



楽しかったよ大佐

三日間の任務をやり遂げた私は——
次の慰問でこの男の雌になる……

は——♡

ひくつく雌の穴が……
そんな未来を私に囁いていた

は——♡

また今度——その時は
じっくりと

あとかきてきは

あゝハイこんにちは寒衣屋です。
いろいろありまして今回は戦ヴァル本です。
というが大佐ですわ。

大佐可愛いよ大佐！
なんというかこの大佐、正直奇跡のデザインですよね。
もうなんか大佐はいるだけでいいんです。

でも正直な話、セルベリアさんが前線でバインバインしてたら
もうなんと言うか、戦闘どころじゃないと思うんですか
さすか帝国、キスしてクッバイ。
すげえな帝国、歪みねえなあ。

まゝそういうわけで今回はこのようになりました。
うーあー。
うん。

まゝ、頑張ります！ 生きます！ 生きていくのです！
めっそり寒衣屋でした。

PS：臀部が痛いです。





興付
発行 / 片耳豚
印刷 / コムプレックス
発行日 / 2010.08.16
連絡 / katamimibuta@yahoo.co.jp

valkyrja of the battlefield
I want to do war
I say once again
Please please please marry!

You say what ?

